

「非認知能力」とは、個人的な「性格」的なスキルのことで、多種多様な社会の中で生きていくために必要な数値化できない能力のことです。

これまでは、学校でも企業の面接でも、偏差値やIQ、学力テストなどの数値ばかりが重視される傾向にありました。しかしいくら”学力”が高くて、「非認知能力」が低く、人として忍耐力が足りなかったり、周りとうまく折り合いを付けられなかったり、コミュニケーションがうまく出来ないことが生じます。逆に、「非認知能力」の高い人は、例え始めは知識不足だったり経験不足だったりしても、周囲の意見を取り入れて学ぶ意欲を持ち続け、次第にできなかったことも出来るようになり、伸び幅が大きいという。近年、「非認知能力」は、将来の所得やキャリアの成功にも影響すると多数の研究結果で指摘されています。

非認知能力の中でも最も重要な性格性には、ビッグ5と呼ばれる5つの資質が挙げられます。

① 勤勉性・誠実性

目標に向かって取り組む態度のことで、勤勉さの度合いが高い人ほど、より熱心で野心や自信があると言われます。非認知能力の中でも重要な性格特性のひとつと考えられています。責任感があり、信頼性が高く、自制心があつて我慢強い。慎重でどんなときにも冷静になる能力がある人なども勤勉で誠実な正確の人といえます。

② 開放性

外界の体験に対して開放的に向かい合う性格のことです。創意工夫や想像力に富み、素早く情報を処理し決断する理知的な能力や知的好奇心が旺盛な人を指します

③ 外向性

積極的で親しみやすく、社会との関わりを進んで持とうとする性格です。リーダーシップを発揮する人や決断力のある人もこの外向性が高い人と言えます。

④ 協調性・調和性

周囲に寛大で協力的な性格のことです。面倒見が良く、他人のサポートを進んで行き、付き合いやすい人のことです。

⑤ 神経症傾向・情緒安定性

楽観的で、情緒の安定した性格を指します。リラックスしていてストレスをうまく発散でき、障害にもうまく対処できる人に高いと言われる性格要素です。

部活動やスポーツ教室など身体的、精神的な努力が必要とされ、チームワークを構築することを学べるスポーツ活動は、非認知能力を培うために大変有効とされます。スポーツ活動は子どもの自尊心や競争心、粘り強さ、動機付け、規律と責任を発達させ、これらはすべて学校以外の課外活動で身に付ける非認知スキルであり、これらは学習過程において役に立ちます。